

C. ポドゾル大群

漂白した白っぽい層と、その下に腐植または鉄が集積した赤黒い層をもつ土壌。表層の腐植層から出てくる有機酸によって直下の層の鉄やアルミニウムが溶かされ、下層の集積層に移動している。寒冷な森林に多く、北海道・東北・中部地方の山地に主として分布するが、一部は、海岸砂丘地にも発達している。

群として1土壌群「ポドゾル」がある。亜群では、有機質層の有無、湿り具合などで、また土壌統群では土性、岩盤、礫層などで細分される。

C
ポドゾル



岩手・秋田県境の山頂部



埼玉・山梨県境の十字峠

C1 ポドゾル

代表的な土壌断面
(普通ポドゾル亜群)

C
ポドゾル



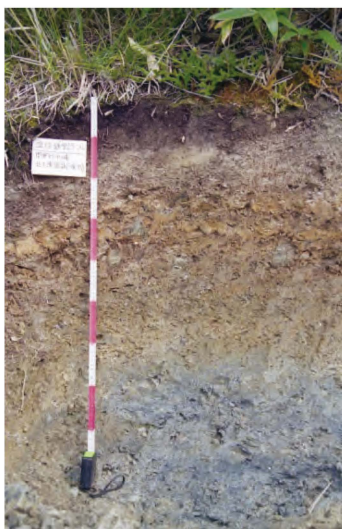
← E層 鉄やアルミニウムが溶かされて抜けてしまい白っぽくなった層。

← B層 E層から抜けた鉄やアルミニウム、表層からの有機物が貯まって赤黒くなった層

礫質普通ポドゾル
埼玉県十文字峠 [モノリス92]

C1 ポドゾル

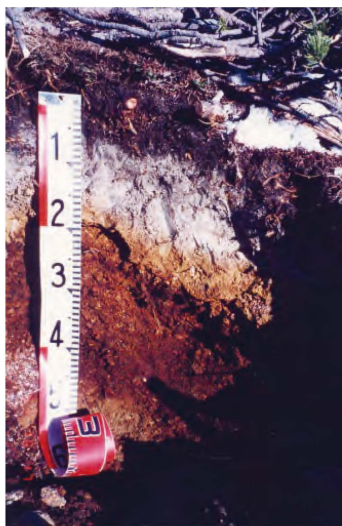
様々なポドゾル群



典型湿性ポドゾル
北海道幌延町(北大天塩演習林)



典型普通ポドゾル
高知県不入山



典型普通ポドゾル
長野県木曾駒ヶ岳

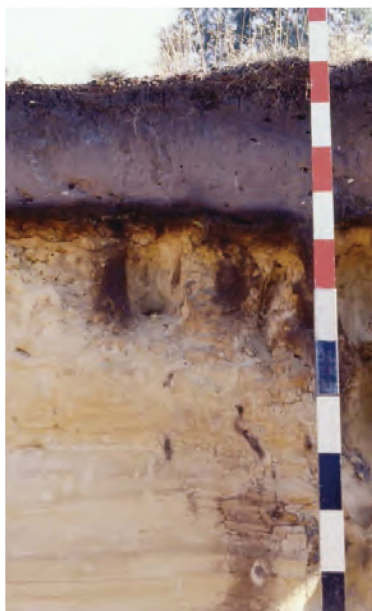


砂丘地の典型普通ポドゾル
北海道浜頓別町 [モノリス93]

コラム

ポドゾルについて

ポドゾルはもともとロシアの「Podzol」に由来し、次表層部分に灰色の層があること意味している（ポド＝下に、ゾル＝灰）。日本では高山帯や一部の砂丘地などにしか見られないが、世界的にはロシア、カナダなど寒冷気候かに広く分布する主要土壌の一つとなっている。



ドイツのグライーポドゾル
(WRB Endogleyic Albic Podzol)